



報告をするまでの行為全般を指すが、会計は、財務会計（会社外部の利害関係者に財務状況を報告するための会計）と管理会計（経営者などが企業をマネジメントするための会計）から構成される。

○ 演者は、「管理会計の企業環境への適合性の喪失」という課題・問題について、アメリカで生成・発展した管理会計についての歴史研究を行うことで新たな検証結果や知見が獲得されれば、それまでとは全く異なつ

○歴史的検証①、従来、19世紀の企業会計をその歴史的考察の中で、正確に把握する必要があると考えた。そこで、アメリカの企業風土をしつかり認識した上で、アメリカの管理会計を日本に適合するように修正・利用する必要があるので、アメリカの企業会計をその歴史的考察の中で、正確に把握する必要があると考えた。

○歴史的検証②、従来、19世紀の企業では経営管理のために投資利益率は使用されていなかつたといわれているが、19世紀中期の鉄道会社では、割当予算作成時には鉄道運賃の設定および鉄道ルートの選定のために既に投資利益率が利用されていた。資料を用いてこれを解明しようとした研究はなかつたが、アメリカ鉄道、

○が革新的な論理を構築できる可能性性が出てくると考え、他の研究者の見解・理論（2次資料）だけでなく、経営者間の企業内部の報告書、書簡、議事録などの1次資料を利用して、自分独自の論理構築を目指して、アメリカの公文書保管所や図書館などを訪問して資料収集した。

○演者の最初の問題意識の1つは、管理会計は、産業革命を経験し原価計算等の会計技法を生成・発展させたイギリスではなく、なぜアメリカで生成・発展したのか、ということ。

○なぜアメリカを研究するのか：アメリカは管理会計の最先端の実務・研究のレベルを持つており、日本の管理会計は原価企画等の一部を除き、

○歴史的検証③、経営管理組織の変化に適合した管理会計の技法・概念の発展についての1次資料を利用した研究がなかつたが、デュポン火薬会社での職能部門別組織から事業部制組織になつた際にも適応して発展したことなどを確認。また、事業部制組織構築以降は、主に戦略計画及びマネジメントコントロールの領域で発展し、オペレーションナル・コントロールの分野では発展しなかつたことを確認。

○最後に「管理会計は組織に従う」・組織に適合した効率的な管理会計システムを構築することが必要であることを確認。

第12回  
四極青雲会総会

第12回四極青雲会総会を、令和4年5月14日17時より、大分センチュリーホテル2階「桜の間」で開催しました。コロナ禍の影響で第10回、第11回と中止になりましたが、3年ぶりの開催となりました。ハイブリッドでの開催としましたが、当日リモートでの参加者が欠席でした。参加者数は総会・記念講演が17名、懇親会が14名となりました。

最初に記念講演では、院1回生で久留米大学商学部教授の高橋慎一（こううろぎ、しんいち）氏に講師をお願いして講演を行つていただきました。高橋氏には当初第11回総会での記念講演をお願いしていましたが、1年越しの実現となりました。演題は「アメリカ管理会計史研究の方法と意義」と題して、長年アメリカの管理

記念講演要旨

○会計とは、経済活動による収支を認識して記録し、利害関係者に対しても

を開始した状況で、「なぜ侵攻は起きたのか」「ロシアの政治体制はどうなつているのか」を探るとして、急遽、大分大学名誉教授でロシアの外交・政治体制が専門の高山英男（こうやま・ひでお）氏に「ブーチン体制とウクライナ侵攻」と題して講演をしていただいたものです。

令和4年度の事業計画（案）は次の通りです。1、会員間の親睦に関する事業として、（1）総会の開催（第12回総会の開催）、（2）イノベーティブセミナーの開催、（3）懇親会の開催、（4）その他（必要に応じた交流会等の開催）。2、会員名簿の作成並びに会報の発行、（1）会員名簿の作成（整備を図る）、（2）会報の発行（第12号を令和5年3月発行）。3、その他（セミナー等への参加の呼びかけ）

決算・予算（案）の説明では、第10回、第11回総会が開催されなかつたことから、令和元年度決算・令和2年度予算（案）、令和2年度決算・令和3年度予算（案）、令和3年度決算・令和4年度予算（案）の説明がありました。

総会のあと18時30分から懇親会を開催しました。14名という参加でしたが、久しぶりの懇親会ということで、1人1人から近況報告をしていただくなど楽しいひとときを過ごして解散しました。総会参加の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。